

令和6年度地域絆づくり事業（紀南の部）記録

※昨年度の記録（和歌山県教育委員会 HP 参照）から



■参加した市町社会教育関係職員の声

- ・楽しみながら知らない間に何かを学ぶということが、今後の公民館活動をするうえで重要になると改めて感じた。
- ・当町でも以前からこういう事業を考えていた。来年度実施したい。

ということで・・・

- 第1回 現地実行委員会 6/13（木）@すさみ町教育委員会
- 第2回 現地実行委員会 6/21（金）@VASTLAND 株式会社田辺支社
- 第3回 現地実行委員会 7/9（火）@すさみ町多世代交流施設「イコラ」
- 第4回 現地実行委員会 8/16（金）@すさみ町多世代交流施設「イコラ」

を経て・・・

令和 6 年度地域の絆づくり事業（紀南の部）

- 目的 令和 5 年度に市町担当者と共同作成した公民館モデル事業の実証実験の場として、既存の社会教育事業と協働する形で実施し、その成果を検証する。
- 主催 和歌山県教育委員会（主管 紀南教育事務所）
- 共催 すさみ町教育委員会
- 協力 VASTLAND 株式会社
- 日時 令和 6 年 8 月 2 4 日（土） 10 時 00 分～14 時 00 分
- 会場 すさみ町多世代交流施設「イコラ」
- 対象 小学生とその保護者
- 内容 「アルミ缶でガスコンロを作って、ついでにカレーも食べちゃおう」

【当日の様子】



小学生 9 人に対して、大人（主催者・協力者）が 10 人。
人見知りすることもなく、大人も子どもと一緒に楽しむ時間になりました。

■ 参加した子ども達の声

- ・ アルミ缶を切ったりはめたりするのは難しかったけど、大人の人が楽しく手伝ってくれたのでおもしろかった。
- ・ ちゃんと作れたので、家に帰ってからも使ってみたい。
- ・ 外でほんもののキャンプもしてみたい。



■ 2年間の総括として（主催者、関係者の声）

- ・ 企業とのコラボができたことで、企画の幅が広がった。
- ・ 事前に現地で打合せ、主催者も体験するプロセスがよかった。
- ・ 町と人、社会が繋がる小さな仕掛け作りをすることが社会教育の1つの役割かも。
- ・ 主催者、協力者を複層的に広げていく仕掛けが、社会教育らしさなのかも。

■ 成果

- ・ 「社会教育の役割を意識した事業企画」を主催者間で共有することができた。

■ 今後

- ・ 公民館事業として展開するためには、火気の使用や主催者と参加者での準備物の分担など、事前調整が必要になる。
- ・ アルミ缶でガスコンロを作るという工作教室を市町村に広げるのではなく、企画のプロセスにおいて、協力者を広げていく楽しさを伝えていく必要がある。

